

平成 29 年度第 2 回清瀬市立図書館協議会議事録

日 時：平成 30 年 2 月 15 日（木） 午後 2 時～午後 4 時

場 所：清瀬市立中央図書館 会議室

出席者：清瀬市立図書館協議会委員

小苺米清弘会長、佐藤伸彦副会長、杉原知子委員、
春日サツ委員、繁田光寛委員、須藤喜和委員

事務局

中村圭子庶務・資料担当主査、山口由希庶務・資料担当主査、
岩田泉奉仕・地域図書館担当主査、横山明子奉仕・地域図書館担当主査、
湯本美奈子奉仕・地域図書館担当主査

配布資料：資料 1 図書館長報告

資料 2 平成 30 年度予算（内示額）

資料 3 平成 30 年度図書館資料関係予算（内示額）

議事

1 開会

2 図書館長報告

3 平成 30 年度予算（内示額）について

4 平成 30 年度図書館資料関係予算（内示額）について

5 その他

（1）平成 29 年度 東京都多摩地域公立図書館大会について

（2）第 3 次清瀬市子ども読書活動推進計画について

（3）図書館協議会の定例会について

ア 実施回数

イ 実施時期

（4）視察研修について

（5）委員の任期について

6 閉会

1 開会

（会長）これより平成 29 年度の第 2 回清瀬市立図書館協議会を開会する。
本日、図書館長は都合により欠席となっている。

2 図書館長報告（資料1）

（会長）図書館長報告をお願いします。

（庶務・資料担当主査）館長が不在のため、代理で今年度の議会報告及び図書館事業の報告をする。

議会報告だが、平成29年第3回定例会市議会にて、駅前図書館運営事業費の共益費530万円の増額補正を行った。内容はクレアビル全体の電気、空調設備等を管理する中央監視装置及び、1・2階共有部分の空調設備修繕料の図書館分担保額になる。

また、平成29年第4回定例会市議会では、駅前図書館運営事業費、駅前図書館空調設備改修工事費2,200万円の債務負担行為を設定する増額補正を行い、両補正共に議会の承認をいただいた。

次に人事について、平成29年10月31日付で庶務・資料担当の嘱託職員が1名退職した補充として、平成30年1月1日付で奉仕・地域図書館担当嘱託職員を1名採用した。また、平成30年1月15日付で庶務・資料担当職員1名が教育部指導課指導事務係に異動となった。

駅前図書館空調設備の障害について報告する。平成29年7月末に障害が発生したため製造業者に修理を依頼したが、設置から23年が経過し部品の供給が既に終了していたため、新たな設備を設置することとなった。

先程報告したとおり、平成29年12月の定例会市議会にて債務負担行為の設定が承認されたので、平成30年2月に入札により工事業者を決定し契約を締結し、改修工事の期間については平成30年6月末日までに完了する予定となっている。

続いて読書交流会について報告する。第8回は平成29年8月26日に児童対象に元西東京市図書館職員で西東京市わかば文庫主催の長谷川幸男氏に「知ってる？ぼく・わたしー自分が好き・人間が好き」をテーマとしたブックトークを行っていただき、第9回は平成29年11月26日に元清瀬市郷土博物館館長の森田善朗氏にご自身が7月に出版された「四季を彩る生きものたち」について紹介していただいた。第10回は平成30年3月10日に清瀬市立図書館協議会の小苺米会長による、ブランコ・ミラノヴィッチ著「大不平等ーエレファントカーブが予測する未来」の紹介を予定している。

その他、平成30年2月17日午後2時からアミュービル7階アミューホールにおいて、清瀬市教育委員会主催の「命の教育フォーラム」が開催される。併せて、同日の午前中に図書館協議会副会長の佐藤校長の清瀬小学校で道德教育の公開講座が行われる。ご参加いただけるようなら事務局まで声をかけていただきたい。以上で館長報告を終わる。

(会長) 読書交流会の事前申込人数について確認したい。読書交流会の開催当初は事前申込人数が 15 名から始まっていたが、現在はどうなっているのか。

(奉仕・地域図書館担当主査) 市報等でお知らせする場合は目安として定員 15 名と記載しているが、実際は 20 名以上の参加もあった。

(会長) 報告の中で参加者は 15 名以上が多いので事前申込に定員 15 名という枠を設定する必要があるのか、参加者側にすると拘束事項にもとれるので今後は図書館で検討してほしい。

(奉仕・地域図書館担当主査) 検討する。

3 平成 30 年度予算内示額

(庶務・資料担当主査) 平成 30 年度予算内示額について説明。(資料 2)

(会長) 毎年資料を拝見しているが、以前に比べ簡潔で理解しやすい資料になっている。

(委員) ブックスタート事業の予算額を教えてください。

(庶務・資料担当主査) ブックスタート事業については 3,4 か月児健診での絵本と専用バッグの配布、1 歳 6 か月児健診での読み聞かせとブックリストの配布、各市民センターの集いの広場で行っている赤ちゃんとお母さんのためのおはなしのじかんがある。平成 30 年度は 3・4 か月児健診時の絵本と専用の布バッグ配布と、2 年毎に改訂しているブックリストの印刷費を合わせて 88 万円となる。

(会長) 駅前図書館のロールスクリーンの取替やソファ購入費等の説明があったが、問題なく予算措置されたのか。

(庶務・資料担当主査) 駅前図書館のロールスクリーンの修繕料やソファ購入の備品購入費については予算の要求が認められたが、開館より 44 年が経過し老朽化が著しい中央図書館全体の配管工事等については予算措置がされなかった。

今後はトイレの配管等の部分的な改修工事を検討し、継続的に予算を要求する。

4 平成 30 年度図書館資料関係予算内示額について

(庶務・資料担当主査) 平成 30 年度図書館資料関係予算内示額について説明。
(資料 3)

(会長) 資料には奉仕用新聞と記載されているが、全国的に使用されている言葉なのか。

(庶務・資料担当主査) 奉仕用新聞という言葉は、利用者に対する奉仕、サービスという考え方で図書館用語になる。

(会長) 非常に古色蒼然とした表現に感じる。閲覧用新聞という表現も可能かとも思うが、図書館専門用語ということであれば構わない。

5 その他

(1) 平成 29 年度東京都多摩地域公立図書館大会について

(会長) 次にその他の平成 29 年度東京都多摩地域公立図書館大会についてだが、参加された各協議会委員よりコメントをお願いします。

(委員) 図書館大会は 2 日間参加した。一日目の午前中は元福生市立図書館長 島氏の講演「まちの図書館、舞台裏の仕事をお話しします！」であった。図書館職員の方たちは裏側のことは当たり前理解されていると思うが、私には大変新鮮に映った。その中でとてもうれしい言葉と思ったのは、島氏が退職されて淋しい気持ちもあり、愛する福生市立図書館のカウンターに寄ったらとてもうれしい気持ちになったというお話を聞いたことだった。退職される前は館長として重責だったと思うが、その言葉を聞いて私はとてもうれしく、そして私も図書館を愛しているんだと感じた。

午後の講演は「多摩地域の郷土レファレンスとレファレンス共同データベース」という内容で、実際にパソコンを使って調べる機会があり、大変便利だと思った。ただ、私は高齢なのでパソコンの使用は難しく、カウンターで尋ねることが多いのだが、職員と接しながら調べるのも、とても良いことだと思っている。

二日目の午前中は春日部女子高等学校主任司書木下通子氏の「読みたい心に火をつける！学校図書館と公共図書館がつながるために」で、私が一番聞きたい講演であった。いつも思うのだが、魅力ある図書館にするにはどうすれば良いのか、例えば会場になった新しい都立多摩図書館を以前見学させていただいたが、広くてきれいで蔵書も多く何て魅力的な図書館だと思った。それに比べ、清瀬市の図書館は古いですが、魅力ある図書館はやはり携わる人だと私は思う。

今回の講演では春日部女子高等学校教諭の情熱をととても感じた。以前の図書館大会で横浜の小学校司書教諭のワークショップの発表があったが、あの時に私は目から鱗が落ちるように感じ、読書を系統的に指導するためには学校司書が重要であると感じた。それを春日部女子高の木下氏は予算がつかなくても、いろいろな壁を乗り越えて学校に司書を確保していくお話であり、ぜひ清瀬市の学校でもその重要さを知っていただき、そして訴えていただきたい。

午後は筑波大学教授呑海氏の「認知症にやさしい図書館」の講演であった。高齢者はどこに行くのかある機関がアンケートで調べたところ、図書館のイメージは知的で安心できる場所として人気があったそうである。私もそのように思うので、図書館は高齢者とどのように接していくのが、これからの重要なテーマだと感じた。

(会長) 内容的には春日委員の報告で十分だと思う。私は初日から三日間すべての分科会に出席した。私としては年に一度の自分に対する研修という意味で参加している。今回もそれぞれ6分科会が行われ内容豊富な報告があり、いろいろと勉強させていただいた。しかし全体的に率直な意見を言うと、今回は少し盛り上がり欠けていたような気がする。なぜかという、外部の人間を呼んで講演会を行ったが内容的に新鮮味に欠けたと思う。逆に言えば、事例研究が少なかったため盛りあがり欠けたのではないか、私の感想は以上である。

(2) 第3次清瀬市子ども読書活動推進計画について

(庶務・資料担当主査) 平成13年に施行された子どもの読書に関する法律に基づき、平成20年3月に清瀬市子ども読書活動推進計画を策定し、続いて平成26年3月に第2次清瀬市子ども読書活動推進計画を策定した。今年度で第2次計画の期間が終了することに伴い、第3次清瀬市子ども読書活動推進計画の策定作業を行う。

この計画は図書館だけのものではなく、家庭や学校、保育園などと連携した計画となる。今後、学校関係等に聞き取り調査を行う予定であり、ご協力をお願いしたい。

(副会長) 前回の清瀬市子ども読書活動推進計画をみると、教育委員会の新たな取り組みとして「清瀬の100冊」について挙げおり、読書の清瀬を目標に市内の小学校と中学校に「清瀬の100冊」を各3セット用意していただいた。

しかし、時が経つと絶版になる本もあり、いくつかの本を学校では新たに購入している。毎年新しい本が出版され、それを支える予算を確保出来れば良いのだが、財政的裏付けは図書館も同様と思うが、学校でも難しいと感じている。

子ども達はどうしても古い本は手に取らない。古くても内容が良い本も沢山あるが、やはり見た目がきれいな本に手が伸びてしまう傾向が学校の図書室を見ていて感じる。

(委員) 最近のセンター試験や都立高校入試では内容を読み取る力を計る傾向になっており、活字離れしている子供は力が発揮できないようだ。これに対応できるようにするために読書活動は大事だと思う。昨年、林真理子氏の講演会に参加したところ、学校では人間関係が上手くいかなくていじめにあっていたが、本を読むなかで高校卒業後や大学に入学すれば違う世界があると理解していたので、頑張れたという内容が印象的であった。

(3) 図書館協議会の定例会について

(庶務・資料担当主査) 図書館協議会の会議は、設置当初から基本的に年 2 回行ってきており、来年度についても 2 回の開催を予定していたが、全庁的に会議の開催数の縮小見直しにより当会についても年 1 回の開催となった。

来年度新たな委員により 2 年間の図書館協議会がスタートするにあたり、大変心苦しいが、どのような形で協議会を行うのが良いのかご相談させていただきたい。

(会長) 年に 1 回の会議でよいのか実施時期を踏まえて検討したいと思う。

(庶務・資料担当主査) 年度初めの 4 月から 5 月は事務報告の用意が困難なため、例年 6 月か 7 月に 1 回目の会議を行い、2 月以降に 2 回目の会議で次年度の予算説明等を行ってきた。また、年 1 回は研修ということで視察を行っている。

(会長) 会議は事務局の準備の時間的余裕を考慮すれば、6 月から 7 月にかけて開催することをお願いしたい。私からの提案だが、従来の形式の協議会は年 1 回として 6 月から 7 月に行うが、協議会として活動するのであれば年 1 回の開催ではあまりに少ないと思う。ボランティアとして会議を開催することは市役所としては難しいのか。

(庶務・資料担当主査) 協議会がボランティアとして自主的に会議や勉強会を行うことについて、問題の有無を調べてみる。問題ないようなら、事務局も協力して参加したいと思う。

(委員) 清瀬には「自然を愛する会」があるが、私も「図書館を愛する会」として会議にボランティアで参加したいと思う。読書の素晴らしさを学校の方々と共有するためにも、情報交換や会議は非常に重要であり、子ども達を育てるには、市役所や学校、図書館等すべてが協力しなくてはならない。

(会長) 従来、年 2 回開催してきたので、基本的には 2 回、必要に応じて臨時委員会を開催すればいいと思う。

(4) 視察研修について

(庶務・資料担当主査) 視察研修は毎年行っており、今年度は新しく開館した都立多摩図書館を視察した。来年度も引き続き実施するのか、ご意見を参考にさせていただく。

(委員) 今回の都立多摩図書館の視察見学は大変勉強になったが、市内の学校に目を向けることも大切だと考えている。以前に清瀬第四中学校の図書室を見学に行ったが、図書室には子ども達からのブックトーク、お勧めの本などが掲示されていた。

私は学校図書館運営支援員の方々や、子ども達と話し合う機会を持ちたいと思う。辛い時に救われるという側面が本には沢山あると思うので、ただ見学をするのではなく子ども達と接することが大切なことであり、市も学校も図書館も垣根を越えての連携が出来たらいいと思う。

(会長) 視察の形式としては学校訪問という形をとって、学校図書館運営支援員や担当教員と話せることが望ましい。

(庶務・資料担当主査) 補足だが、学校図書館支援員の派遣を委託されている内田洋行により支援員の研修や会議は継続的に行われており、図書館でも 3 年前に選書について研修を依頼された。

また、図書館で出版業者による児童書の移動見計を行う際は、児童書を手にとって選書出来る良い機会なので各学校の学校図書館運営支援員の方に声をかけている。

(会長) 過去に学校図書館を訪問したが、従来のに新しい形の学校訪問は考えられるのか。

(委員) 学校図書館の訪問よりも、私の願いは具体的には思いつかないのだが、

何らかの形で学校図書館運営支援員の方々へのバックアップが出来ればと考えている。

(庶務・資料担当主査) 現状をお伝えすると、教科で先生が必要な本を学校図書館運営支援員を通して、図書館から学校に貸し出しを行うバックアップは行っている。しかし各学校の先生や学校図書館運営支援員の熱量にもより、出来ない学校やクラスもあるかとも思う。図書館としては学校からの要望があれば全力でサポートをしている。

(会長) 研修課題としてぜひ新しい形の研修を実現したいと思う。研修ということになると、学校訪問と近隣の先進図書館の視察という形になる。委員の発言は時間をかけて具体的に検討するということで、新年度の研修は近隣の先進図書館ということではいかがか。

(庶務・資料担当主査) 委員の皆様のご希望があれば、近隣の図書館の視察について対応させていただく。

(会長) 新年度は新しい在り方を模索している図書館を訪問したいと思う。

(5) 委員の任期について

(庶務・資料担当主査) 委員の皆様には 2 年間大変お世話になり、館長に代わってお礼を申し上げます。

(会長) 以上で議事次第については終了だが、ひとつ確認させていただきたい。

今年度DVD映画「ローマの休日」の上映会が唐突に実施されたが、私は参加して大変良かった。しかし、図書館協議会委員としてはDVD上映会については事前の情報も無く突然の上映会であったので、どういう背景で実施することになったのか説明を願いたい。

(庶務・資料担当主査) 館長が不在のため確認できないが、第 2 次清瀬市教育総合計画マスタープラン実行計画の中に、図書館でのDVD映画上映会が挙げられている。本来であれば、実施にあたって図書館協議会の委員にもご案内をするべきであった。

(副会長) 第 2 次清瀬市教育総合計画マスタープラン実行計画に、子供向け事業の拡充とあり、ワークショップ、読み聞かせ、DVD上映会の拡充と記載さ

れている。

(会長) 今の説明で理解したが、図書館と図書館協議会の信頼関係を維持するためにも意思疎通が必要であり、今後は情報提供について配慮していただきたい。では、最後に副会長からご挨拶をお願いします。

(副会長) 私も 2 年間この会議に参加して、図書館の運営について職員の皆さんがいろいろと苦労し工夫されていることがよく分かった。

特にブックスタート事業について、はじめての絵本リストに目を通して見た時に、若いお母さん方が絵本のリストや本を手に取り、自分の子どもに読んであげたいと思う気持ちを持たれることを想像した。この気持ちを大事にしていただき、そして母親に本を読んでもらったその子供たちが、小学校に入ってくれば非常に嬉しい。

本日の会議では、新年度の予算について説明があった。学校も同じだが予算の執行はハードとソフトに分かれている。特にハード面に多額の費用が必要な場合はとても厳しい。本来であればソフト面をもっと充実させたい、本をたくさん購入したいという気持ちがあると思うが、携わっている図書館の方は、この現状の中で努力されているということがよく分かった。

もう一つ、図書館支援員の話が出ていたが、学校でも学校図書館運営支援員がいるだけで子ども達や教員、保護者の方も話を聞きに行ったり本を紹介してもらったりと大変ありがたい存在だ。できれば学校図書館運営支援員も毎日学校にいていただきたいと思うが、なかなか難しいところがある。

本日の会議の中で、学校図書館運営支援員をどうサポートしていくのかという動きを図書館協議会で出来ないのかとあったが、学校現場としては大変有難く、ぜひ検討していただけたらと思う。

(会長) 以上で平成 29 年度第 2 回清瀬市立図書館協議会を終了する。